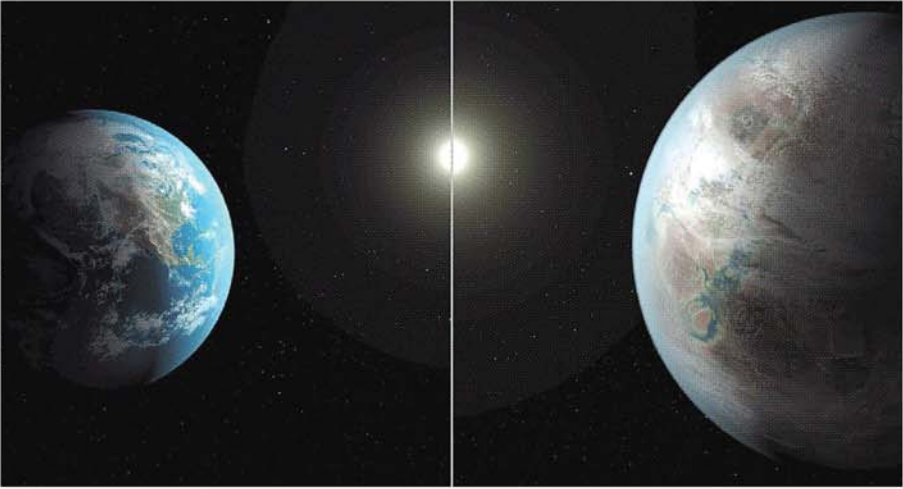


かほく ワークシート

地球(左)と直径が1・6倍ある「ケプラー452b」(右)の想像図(NASA提供・共同)



1400光年先に「地球のいところ」NASA発見

【ワシントン共同】米航空宇宙局(NASA)は23日、地球から1400光年先のはくちょう座の方向にある太陽に似た恒星の周囲を、直径が地球の1・6倍の惑星が回っているのを、ケプラー宇宙望遠鏡の観測で見つけたと発表した。

地球のように岩石質で、水や大気を持つ可能性がある。NASAは「地球より大きくて年上のいところのような星。これまで見つかった中で生命を育む環境を備える可能性が最も高く、『もう一つの地球』を将来探すのに役立つそうだ」としている。

惑星の名前は「ケプラー452b」。太陽より20%ほど明るい恒星を385日で周回する。公転半径が地球と太陽の距離に近いため、地表に水が存在する可能性がある。太陽の年齢は約46億年だが、恒星は60億年とみられる。

(2015年7月25日河北新報朝刊)

①アメリカ航空宇宙局(NASA)はケプラー宇宙望遠鏡で発見した惑星(わくせい)をどのように表現しましたか。日本語で答えましょう。

--	--	--	--	--	--	--

②その星はどのような点が地球と似ているのでしょうか。文中から読み取りましょう。

★みなさんも興味を持った夏の星を観察してみませんか。

年 組 名前

(小学校中学年以上/理科・夏休み自由研究)